

大崎耕土の巧みな水管理と 持続可能な水田農業



宮城県大崎市産業経済部
世界農業遺産推進監 安部祐輝



1

宮城県大崎市

人口:約124,000人

面積:796.81km²

2006年、1市6町で合併し誕生

古川市、三本木町、松山市、鹿島台町、
岩出山町、鳴子町、田尻町

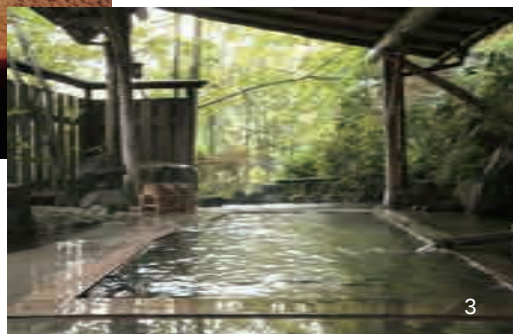


2



東部田尻地域にある蕪栗沼や古川地域にある化女沼はラムサール条約湿地に登録され、マガンなど約10万羽の渡り鳥が飛来、渡り鳥の楽園

西部の鳴子温泉地域5つの温泉地があり、「鳴子温泉郷」は国民保養温泉地に指定され、国内10種類の泉質のうち、7種類が楽しめる



3

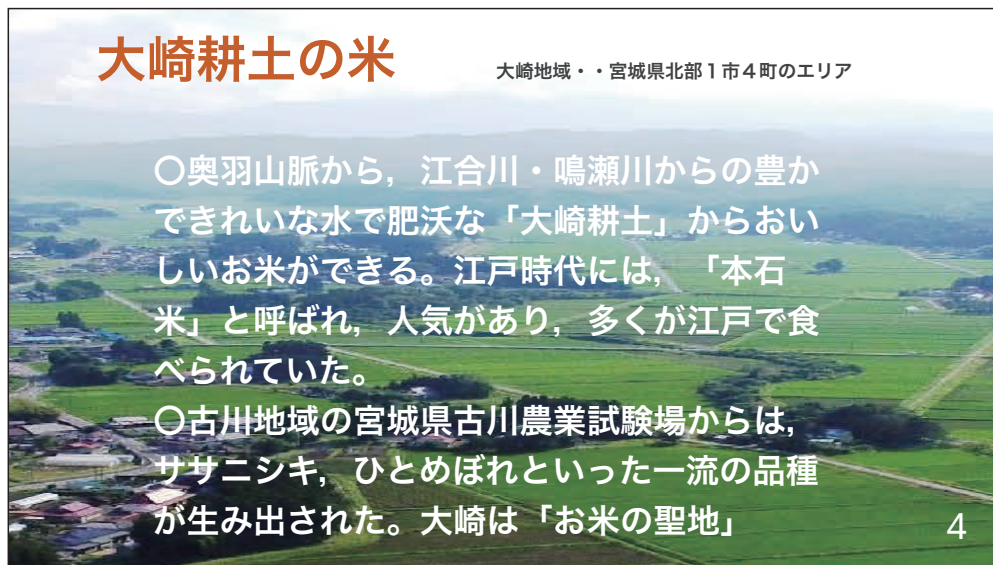
大崎耕土の米

大崎地域・宮城県北部1市4町のエリア

○奥羽山脈から、江合川・鳴瀬川からの豊かな水で肥沃な「大崎耕土」からおいしいお米ができる。江戸時代には、「本石米」と呼ばれ、人気があり、多くが江戸で食べられていた。

○古川地域の宮城県古川農業試験場からは、ササニシキ、ひとめぼれといった一流の品種が生み出された。大崎は「お米の聖地」

4





世界農業遺産（GIAHS）

- 世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を国際連合食糧農業機関（FAO）が認定
- 世界では24カ国78地域、日本では15地域が認定（令和5年7月現在）

<世界遺産（UNESCO）との違い>

世界遺産
・不動産で歴史重視
・遺跡や建造物が主
・「～してはならない」
・現状を変えないことが基本（保護・保存）

世界農業遺産
・システムで未来志向
・進化する知恵の遺産
・「～したほうがいい」
・社会や環境に適応した動的な保全

<日本の認定地域>

→ 未来に残す（次世代に引き継ぐ）

7



水管理基盤のつながり ～流域を俯瞰した巧みな水管理の基盤～

- 堰・隧道・潜穴で上流の水を流域農地に取り入れ活用、水の不足する下流域では**反復水利用**や**ため池**で補給、**遊水地**による洪水被害の減災

- 流域に3つの遊水地、約1,152ヶ所のため池、6千kmの水路

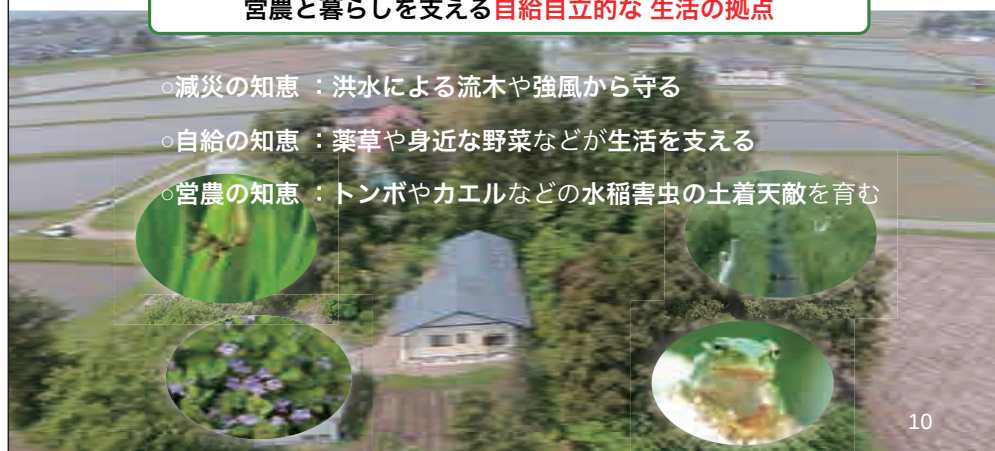


9

24,300の知恵「居久根」

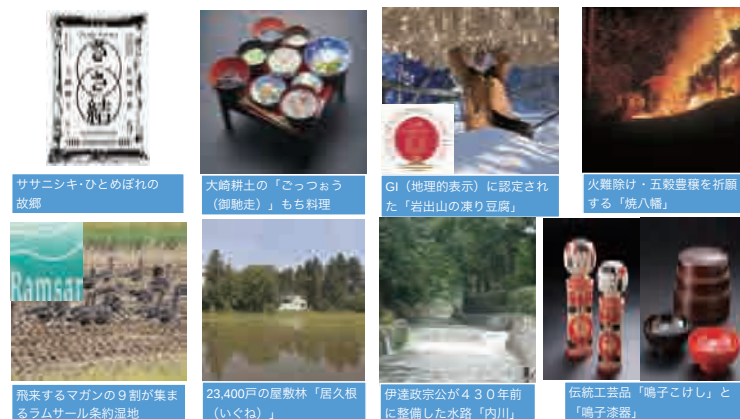
営農と暮らしを支える自給自立的な生活の拠点

- 減災の知恵：洪水による流木や強風から守る
- 自給の知恵：薬草や身近な野菜などが生活を支える
- 営農の知恵：トンボやカエルなどの水稻害虫の土着天敵を育む



10

大崎耕土の多様な地域資源（食・文化・自然）



11

保全と活用に向けた取組の方向性

- ・ 水のつながり・知恵のつながり・人のつながりの3つの推進施策（第1期）を継承しつつ、SDGsや「みどりの食料システム戦略」などと整合を図りながら、農業を取り巻く情勢に即した「**守るために活かす**」取組を推進
- ・ **フィールドミュージアム構想・認証制度・人材育成**を3本の柱として取り組む

<世界・日本農業遺産保全計画（第2期）の概要>



12

GIAHS1 フィールドミュージアム構想

<大崎耕土の地域資源の見える化>



- 道の駅等の情報発信拠点に設置（フィールドミュージアムマップ）
- ホームページに掲載（FMマップ、散策マップ、映像集）
- 各地域資源に案内看板を設置
- 地域内の小3～小6に配布
- 編集版小冊子を教育旅行等に活用

【世界農業遺産認定5周年記念イベントの開催】

- ・記念フォーラム・スタンブリー・インスタフォトコンテスト
- ・1市4町普及啓発キャラバン・世界農業遺産フェア in Route227's Cafe

<景観保全システムの確立>

【居久根の保全と活用】

- ・維持管理等に係る補助制度
- ・市民参加型や企業と連携した維持管理作業や体験プログラム、ツーリズム等の実施
- ・研究や学習活動と連携した居久根の深化（防風効果や配置パターンなど）、保全マニュアルの作成

<食・農作業体験等の受入体制の確立>

【GIAHSツーリズムや農泊の充実】

- ・語り部育成講座やモニターツアーの実施、視察研修等の受入
- ・第1回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会の実施
- ・地元産物や大学と連携したスタディーツーの実施

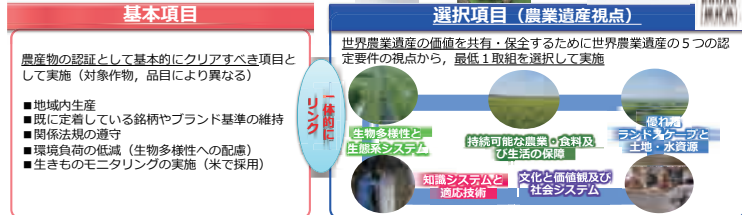
13

GIAHS2 世界農業遺産「大崎耕土」ブランド認証制度

<地域資源の価値の発信>

【ブランド認証制度の拡充】

- ・米（R1）、岩出山産豆腐（R2）、野菜・日本酒（R3）
- ・加工品【米・野菜・大豆】（R4）



【認証品の発信】

- ・仙台圏や首都圏での物産販売会への出展（ふるさと祭り東京など）
- ・ビジネスマッチングの機会創出（アグリフードEXPO東京など）
- ・二次元コード、HPを活用した情報発信

<生物多様性や農村景観の保全・継承者育成>

【普及啓発・人材育成】

- ・農業大学や地元高校での講義や研修会の実施
- ・生きものモニタリング調査講習会の実施（米の認証）
- ・世界農業遺産「大崎耕土」基本講座の実施（野菜等の認証）

14

認証制度の取組基準（米の認証）

対象作物・品目等

古川農業試験場で育種された品種であること

基本項目

認証対象

- 大崎地域内の生産者・生産者団体（属人）
- 大崎地域内で生産（属地）

個別要件

- 農業化学肥料の削減（宮城県県行比5割削減）
- モニタリングの実施宣言
- ①初年：モニタリング講習会への参加（協議会主催：1回/年以上）
- ②2年目：モニタリング実施（1回/年以上）

※実施時期の指定あり

選択項目（GIAHS視点）

- ①特筆した環境負荷低減の取組み JAS有機産物認証の取得
- ②GAPの取組み GAPの取得による生産工程管理の実施
- ③農業農村の多面的機能を支える取り組み 多面的機能支払活動への参加（その他中山間地の活動）生物多様性向上の取り組み
- ④品種の多様性を保全する取組み 大崎地域を代表する希少品種を保全する取り組み
- ⑤世界農業遺産の価値を共有する取組み 産地と消費者の交流など交流事業の実施

世界農業遺産「大崎耕土」の価値を伝え・営みの持続可能性に貢献

15

GIAHS3 人材育成 「世界農業遺産 副読本」制作等

<大崎耕土の理解促進・人材育成>

【副読本の活用】

- ・副読本を令和2年度から大崎地域内の小学校3～6年生全員に配布（約10,000部）
- ・令和4年度には電子版も作成、冊子版も二次元コードを活用し動画へのアクセス性も向上
- ・概要版も作成し、教育旅行などにも活用
- ・学校での活用促進に向けた講義・課外学習プランの作成

【教育機関等との連携】

- ・カリキュラムへの協力や講師派遣等による教育機関での人材育成
- ・各種団体等での出前講座等の実施
- ・おさき生きものクラブにおける環境教育・人材育成

<語り部の育成・住民等への展開>

【公民館等との連携】

- ・語り部育成講座や公民館職員向け研修の実施
- ・公民館主催の住民対象研修会への協力・事業自主化の促進

【企業等との連携】

- ・売上の一部が寄付される世界農業遺産「応援自販機」の設置（連携協定）
- ・CSR活動としての居久根での維持管理作業
- ・体験型ツーリズムの実施

【農耕文化等総合調査】

- ・世界農業遺産「大崎耕土」の民俗誌作成に向けた調査の実施（5か年事業）
- ・調査成果を副読本やフィールドミュージアムマップ等に反映予定
- ・学校での農耕文化関連授業の実施や地域の調査協力員の活用、地域などにおけるワークショップなどを実施、住民参加型で人材育成にも寄与

16